

別紙（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	第1回第3次和泉市生涯学習推進プラン・第2次和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会
開催日時	令和4年6月23日（木曜日）10時から11時まで
開催場所	和泉市コミュニティセンター4階中集会室
出席者	澤村 直幸 委員、金谷 忠男 委員、恵山 文孝 委員、坂東 剛 委員、門林 淳 委員、野口 祥子 委員、駒澤 重信 委員、千葉 昌一 委員、門林 弘季 委員、吉岡 隼平 委員、鈴木 雄太 委員、竹内 靖子 委員（名簿順）
欠席者	上西 恵子 委員、小前 恭則 委員（名簿順）
傍聴者	なし
会議の次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状交付 2. 教育長挨拶 3. 和泉市生涯学習推進プラン・和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会規則及び組織について 4. 委員紹介 5. 議案審議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員長及び副委員長の選任について (2) 第3次和泉市生涯学習推進プラン・第2次和泉市スポーツ推進基本計画について (3) 計画策定のスケジュールについて (4) 市民アンケート調査の実施について 6. その他
会議の要旨	和泉市生涯学習推進プラン及び和泉市スポーツ推進基本計画の策定に係る調査審議に関すること。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他
備考	

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(司会進行：事務局)

- ・事務局より会議開催についての説明

本会議は公開することとなっていることを報告

会議資料の確認

1. 委嘱状交付

2. 教育長挨拶

3. 和泉市生涯学習推進プラン・和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会規則及び組織について

- ・和泉市生涯学習推進プラン・和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会規則について簡単に説明
組織については、委員に名簿を配付し、構成員の説明

4. 委員紹介

- ・名簿にそって委員紹介

事務局紹介

- ・事務局より出席委員数の確認

委員総数14名のうち、出席者12名、欠席者2名となっており、和泉市生涯学習推進プラン・和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会規則第6条の規定に基づき、本会議は成立していることを報告

5. 議案

(1) 委員長及び副委員長の選任について

- ・和泉市生涯学習推進プラン・和泉市スポーツ推進基本計画策定委員会規則第5条の規定に基づき、委員の互選により委員長と副委員長を選出

委員長に鈴木委員、副委員長に竹内委員と決定

(司会進行：鈴木委員長)

(2) 第3次和泉市生涯学習推進プラン・第2次和泉市スポーツ推進基本計画について

事務局説明

計画策定の背景と目的として、平成14年に「和泉市生涯学習推進プラン」、平成25年に「第2次和泉市生涯学習推進プラン」を策定し、いずみ市民大学の設置など生涯学習施策の推進を図ってきた。

また、平成15年に「和泉市生涯スポーツ振興基本計画」、平成25年に改訂版「和泉市スポーツ推進基本計画」を策定し、生活習慣病の予防等を含めたスポーツ施策の推進を図ってきた。

令和4年度に両計画の期間が終了することから、引き続き、生涯学習やスポーツ振興に関わる多様な施策を総合的かつ計画的に推進していくため、これらの計画を改定するものである。

計画の構成と内容として、和泉市教育大綱の体系に基づき、現行の計画には十分位置付けられていない図書館・美術館・文化財・青少年事業等も含め、生涯学習全体の計画とし、「和泉市生涯学習推進プラン」「和泉市スポーツ推進基本計画」両計画を1つの冊子として構成していくものである。具体的には、第1編に計画の概要として和泉市の状況などの共通事項を盛り込み、第2編を第3次和泉市生涯学習推進プラン、第3編を第2次和泉市スポーツ推進基本計画とし、最後に資料編を掲載する予定。

計画の期間として、令和5年度から令和14年度の10年間の計画とする。

委員長：今回の計画策定にあたり、さまざまな団体を代表して集まっている委員の皆様から和泉市の生涯学習・スポーツ事業に関わるにあたり、課題に感じていること等をお伺いしたい。

委員：体育館が移動する、新しく作り直すということを聞いたが、どのような体育館になるのか、説明をお願いしたい。

事務局：幸団地及び北部総合福祉会館跡地を移転候補地としており、広さとしては6,000平米の予定、門真市の体育館のようなイメージを想定しており、令和16年度ごろに開館予定

委員：車を止められない現状があり、駐車場を課題と感じている。次に施設整備されるときには考慮いただきたい。

委員：駐車場の件については、スポーツ推進委員としてもニュースポーツの取り組みなどで体育館を借りる際、気になる。もう一つ、春にあるこう会として、バス3台を市役所の駐車場に停めていたが、新しくできる駐車場はそのあたりはどうなるのか。従来は福祉関係のバスも2台、合計5台くらいが市役所駐車場から出発していた。そういうスペースについては今後どうなるか。

事務局：駐車場については庁舎整備の担当になり、具体的にお答えしづらい。バス5台の実態は把握していなかったが、他の委員からの指摘もありました通り、駐車場については整備が必要となるため、うまく併用しながら対応していきたいと考えている。

委員：体育協会は19連盟があり、大きな場所を必要とする野球やサッカーもあれば、小さな場所を利用するところもある。会場の問題で困っているのが、月に1回日曜日を一般市民の為に開放していることについて、連盟の大きな場所を必要とするところがスムーズに計画通りにいかない。また、会場をどのように使える場所があるかということについて、検討してほしい。また公共施設の建物を利用するときに、15分前からしか入室できないということがあり、準備に時間がかかって試合が遅れる。施設管理者とどのようにやっていけばよいか考えてほしい。

また、グラウンドゴルフの大会も減っており、運転免許返納し、遠い会場に行きにくいという問題がある。婦人会や子ども会などの他団体も人数が減ってきており、課題としてどのように解決していくか、考えてほしい。

委員：和泉市PTA協議会からは、本会議に関連して課題として考えられるような意見・発言等は現状ではなし。

委員：計画については、若年から高齢者までの計画ですが、老人クラブ代表として高齢者の立場から言うと、超高齢化社会に入り、人生100年時代と言われる中で、健康で長生きしたい、地域に住みたい。免許を返す人が多くなり、グラウンドゴルフ大会をしても、車を運転する人が減って参加できない。できるならスポーツ広場、集いの場を、各拠点に作ってほしい。コロナで外出を控えていたが、最近はウォーキングも盛んになっている。市内各拠点でウォーキングできる場所を広げてほしい。また、シーズン毎にウォークラリーをやっており、コミセンや人権文化センターを拠点としているが、運営する側を含めて150人ほどになり、駐車場の問題がある。和泉中央で開催すると他の地域からの参加者に駐車料金負担がかかる。市

内どこでも負担なく生きられるようにしてほしい。

委員：生涯学習・スポーツの中では、障がい者のスポーツについてあまり知られておらず、特にサウンドテーブルテニスはどんなスポーツですか、と言われる。そういう障がい者スポーツがあるということを広めてほしい。

委員：生涯学習とスポーツを包括してやるのは大変いいことだと思っている。前から別々なのはおかしいと思っていた。一つお聞きしたいのですが、前回の生涯学習計画策定の時の委員は教育長も青少年センターも入っているが、文化財や読書振興課長は入らないのか。

事務局：今回の策定委員の中に各団体の代表は入っていないが、事務局として担当レベルの会議を行い、計画には青少年センター、文化財、読書も包括した総合計画として予定している。また会議の出席については、委員会規則に基づき、委員長が求めれば関係者の出席を要求できるため、必要に応じて招聘する。

委員：そのあたりに落ちのないようにしてほしい。また、他の会合でも要望しているが、青少年健全育成指導の中で、住民の皆さんからスケボー、特に公園での居座りを青少年に止めさせてほしいという要望が多い。スケボー等の施設が市内にないため、青少年に注意をする際に代わりに案内することができない。以前からお願いしているが、新しい体育館の計画にスケボー等の施設は含まれているか。

事務局：スケボーの施設については要望をいただいております。池上曾根遺跡公園リニューアルにおいて、令和8年ごろに多目的広場ができ、スケボーが可能な環境となる。スケボー施設の方向性については、スポーツ推進基本計画の中でアンケートなども踏まえながら検討していきたい。

委員：ぜひ計画の中に入れてほしい。

委員：こども会としては、スポーツをする場所がネックになっている。ソフトボール、キックベースを年間で行っており、光明池グラウンドを毎年借りているが、雨天時など、複数日にまたがり、他の施設も借りなければならぬようなときに、場所の確保が難しい。無理なくできる場所が欲しい。移動に関しては問題があまりないため、市内海側ではなく山側でもよい。その辺に施設ができれば、ありがたい。

委員：コロナ禍で活動ができておらず、再開していこうとしているが、子どもたちにこども会や団体以外の優先順位ができていない。こども会しかできないこと、魅力を伝えていかなければ、老人クラブまで団体活動が繋がっていかない。そうした先輩方の団体と一緒に考えていく有意義な会にしていきたい。

委員：識字学級はもともと戦争や貧困で小中学校に行けなかった人の学びの場だが、今はそれ以外の障がいがある、母語が日本ではないといった日常生活で困っている人などが来ている。活動の中で見聞きすることとして、高校は卒業しているため、再度夜間中学や高校に入るのも難しいが、生活に必要な義務教育の範囲を再度習う場所が必要という人が意外という。前回、国勢調査で調査項目にこれまでなかった小学校卒という学歴区分を作ったら、数値として出てきたという報道があった。そういう人に対し、応援できることもあると思うが、つながりがない。識字学級も知られておらず、年配の人が学ぶ場という印象があるため、若い世代で再度学びたいという潜在的需要にうまく応えられていない。国勢調査のように和泉市内の小学校・中学校に行っていない人の数字が出ているか。

事務局：委員ご指摘の数字については手持ちの資料がない。調査のうえ、プランにどのように反映できるかを含めて今後検討したい。

委員：桃山学院大学で社会福祉、現在はソーシャルデザイン学科と健康スポーツ学を半々で担当している教員である。この4月から大学生と一緒にスポーツができるようになり、試行錯誤しているが、授業に取り組む中で学生は対面に飢えていて、仲間づくりに興味を持っていることを感じている。課題解決は価値があることであるし、生涯学習はずっと学び続けることなので、楽しいことでやっていかなければと思っている。

(司会進行：鈴木委員長)

(3) 計画策定のスケジュールについて

(4) 市民アンケート調査の実施について

事務局説明

(3) 計画策定のスケジュールについて、6月から9月の期間にアンケート調査の実施と並行して現行計画の評価検証及び計画骨子案作成を進めていく。計画骨子案につきましては、作成の段階で委員にメール・郵送等で意見を頂き、それを踏まえて、9月に開催する第2回策定委員会においてアンケート調査の報告及び計画骨子案を検討いただく。10月から11月の期間に計画素案を作成し、11月に開催する第3回策定委員会

で計画素案を検討いただく。12月にパブリック・コメントを実施、その結果を受け計画原案の作成を行い、令和5年2月に開催する第4回策定委員会において、パブリック・コメント結果報告及び計画原案を確認いただく。

(4) 市民アンケート調査の実施について、アンケート調査の目的として、市民の生涯学習・スポーツに関する行動や意識、現状、課題を把握し、新計画策定の基礎資料とすることを目的として、市民を対象としたアンケート調査と、施設利用者を対象としたアンケート調査を実施する。

概要として、2種類のアンケート調査を行う。

まず、市民意識調査として、18歳以上の和泉市民を対象に3,000名を無作為に抽出し、郵送にて調査票の配付・回収を行う。調査票にはQRコードを記載し、オンラインでの回答も可能。

次に、施設利用者調査として、生涯学習施設及び体育施設において、施設利用者延べ1,000名に対して調査票を配付・回収を行う。

調査結果は報告書としてまとめ、次回策定委員会で進捗状況を報告する。

委員：調査対象が18歳以上となっているが、上限はないのか。

事務局：上限については考えていない。

委員：一度検討いただきたい。年齢の配慮をお願いしたい。

6. その他

委員長：事務局から報告事項などないか。なければ、これをもって、本日の生涯学習推進委員会を終了する。